

断熱製品生産2割増強

クロスメディア、機器省エネ向け



クロスメディア（相模原市緑区、吾妻透社長）は、ボイラやバルブといった機器の断熱・保温、安全対策などができる着脱式カバー「ファイインジャケット」の生産能力を現在比約20%高める。既存倉庫約330平方メートルを工場に改装し、裁断機1台とミシン5台を導入する。設備投資額は約2000万円。従業員も6人ほど増やす。電気代高騰で、燃料費を節約できる同製品の需要が旺盛という。

工場設計段階の採用目指す

ファイインジャケット」を特殊な糸で袋状に縫製した中に、ガラス繊維など断熱材を詰め、オーダードが主で、工業用ミシンを使い手作業

で作る。面ファスナーで着脱可能で機器のメンテナンスが容易。生地や糸の変更で約20度C〜900度Cの温度域に対応する。

断熱により熱エネルギーの放散を防ぎ、熱効率を高める。射出成形機のシリンダーにファイインジャケットを装着し、装着部のみで電

気代を約3分の1に抑えた例もある。従来はトタンなどで機器を囲い断熱していた。だが、板金工が減っているほか、定期点検時には外して施工するため手間が大きかった。

クロスメディアの2022年度売上高予想7億2000万円の97%以上を占める主力製品で、増産により25年度に全社売上高10億円を目指す。吾妻社長は「工場やビルなどの設計段階から断熱の選択肢として（採用を）検討いただけるようにしたい」としている。

▲クロスメディアの「ファイインジャケット」熱エネルギーの放散を防ぎ、機器の熱効率を高める